星槎大学紀要（Seisa Univ. Res. Bul.）共生科学研究 No.16　99～100（2020）

特集コラム　星槎グループのコロナ禍への対応と課題

# 「教育実習中止」から教育現場につなげる信念とは

嶋　田　　優

現在（2020 年 11 月）も、新型コロナ感染症に関しての不安は依然として続いている。日本国内では、第三の感染拡大の波が押し寄せているような報道もされている。私自身、2020 年の幕開けをいま振り返ってみても、この世界中を混乱と不安に陥れた感染症についての捉え方は、これほどまでに深刻に受け止めていなかった。しかし、時々刻々と世界の至るところで感染拡大による被害が報道されてくるにつれて、まさに未曾有の危機に直面していることを実感するようになった。国内でも、次第に感染者の数が日を追って増加し、著名人の死亡等も報道されてくると、この新型感染症に対する恐怖感、不安感は一挙に膨れ上がってきたようだった。そのような不安が続くなか、安倍前首相による全国の小中高の臨時休校要請の報道は、社会全体にさらに大きな不安や心配をもたらすこととなった。とりわけ、教育関係者からは、突然の要請で、今後具体的にどのように対応してよいやら途方にくれたとの言葉がたくさん聞かれた。

本学では、年間 1,000 人を超える学生が教員免許を取得しようとして取り組んでいる。教員という仕事に対する憧れとその仕事に就きたいと願う強い思いや、すでに教育関係で仕事をされている方が、新たに別の資格を取得して、そこで得られた知見をさらに活かして仕事を充実させていきたいと願うなど、多様な志望動機のもとに目標の実現に向けて努力を重ねている。

2020 年度においても、教員免許取得を目指して、多くの学生が自分の学修スケジュールに基づいて取り組んでいたのだが、ここで大きな問題が生じたのである。新型コロナ感染症の拡大に伴い、関係各省庁から学校現場に対する注意喚起がたびたび行われたが、教育実習の実施に関しても状況に応じて実施時期の見直しや期間の短縮について要請がなされたのである。状況によっては「教育実習の中止」も視野に入れていくことを通知したのである。これらの通知は、教員養成を掲げている全国の大学に大きな波紋を及ぼすこととなった。この間、大学における授業についても、通学制大学でもオンラインを用いた授業が大半を占めるような状況であった。教育実習の実施についても大学関係者は大きな不安を抱いていたことは事実だが、実際に具体的な通知が出されたことにより、急遽、それらを補完していくための方策や課題について検討していくこととなったのである。

わが国の教員養成の取組において、教職に関わる一般的な素養・専門的な知識・技能を習得していった最終的な段階で、教育現場の実際を実地に学ぶことによって、まさに理論と実践との融合を図る貴重な機会となるのが「教育実習」なのだ。本学においても、教育実習を

星槎大学共生科学部

実施する前にも「事前指導」として改めて細かな点について共通理解を図っている。個々の学生は、教育実習に向かう意識を高め、自分自身の課題等を明確にしながら実地の場に立ち向かおうとするのである。一定期間の教育実習を終えた学生は、「事後指導」の場を通して、現場で得た貴重な体験等を交流する。実習校の指導教官の児童・生徒への関わり方から、児童・生徒を理解していくことの大切さや工夫などについて驚きを感じる学生も多く見受けられる。また、教育活動の根幹をなす「授業力」についても、期間中に多くの参観の機会があり、具体的な方策等を体得することができる。また、昨今、話題となっているわが国の働き方改革による現状についても、教育現場の現実をもとに直視してくることになる。教職員の働き方が、どのように改善され、児童・生徒により丁寧に関わることができるようになってきたのかについても実感的に理解することにつながる。

このように「教育実習」が教員養成に関して極めて重要な位置にあることは疑うまでもないことだが、現状としてこの教育実習が大きく変容してしまったのである。学生からは、教育実習に行けないまま教職に就くことに対する不安感や教員採用試験に関する影響等を不安視する声も上がっている。しかし、現状の困窮をいくら嘆いていても先には進めない。これらの危機を直視しながらも、教育現場につながるための工夫や方策について考えていくことが必要となろう。以下、三つの提言をしたい。

①児童・生徒をより深く理解するために

教育現場で実際に生じている様々な場面・交流等から、それらの行動について改めて考察していくことは意義深いことである。ここでは、教育心理学等の知見だけでなく、「児童・生徒指導の実際」について参考資料等を学修するとともに、いくつかのロールプレイを実践し現場をイメージさせていくことが効果的である。

②授業力を高めるために

教育実習が変更となったときに、学生の授業力を向上させていくためにはどのようなことが効果的か。授業を構成する要素として「指導内容」や「学習活動の流れ」「発問や板書」などの基本的な部分に立ち返って焦点化して学ぶことが求められよう。学生が対象となる校種を想定して、いくつかの学習の場を取り上げて精緻な「学習指導案」の作成をしていくことは授業力向上の第一歩である。その上で、「模擬授業」を行い、学生同士で協議し合うことにより、自分自身の授業を向上させていけるのである。

③教育の現場を知ること

教育実習を通して、教育の現場の空気を体感することは貴重な機会だが、残念ながら現状ではこの機会も大きく失われてしまった。そこで、教育の現場を取り上げている様々な映像資料の中から、いくつかポイントを絞って取り上げて教育現場を受け止めさせたい。例えば、「教職員の一日の生活の断片」「地域や保護者との連携・協力」「児童・生徒との交流」「教職員の業務とは」「会議や研修」などを取り上げてみるのである。

想定されていなかった危機が依然として続いている中でも、全国の園や学校では多くの子供が日常の営みを続けている。困難が続く中でも教育はできることから信念をもって歩みを続けていくことが大切なのである。